世界遺産と群馬の鉄道

カイコと鉄道

群馬県高崎市
立箕輪小学校
5年
柴山琴乃

〈世界遺産・富岡製糸場〉

富岡製糸場は、一八百七十二年に器械製糸工場として富岡市に開業されました。そこでは、三百人以上の工女がまゆから糸を器械でとり出して働いていました。平成二十六年に世界遺産に登録されました。

〈①富岡製糸場〉

製糸場の中にある、東置繭所 西置繭所が国宝に指定された。

〈②荒船風穴〉

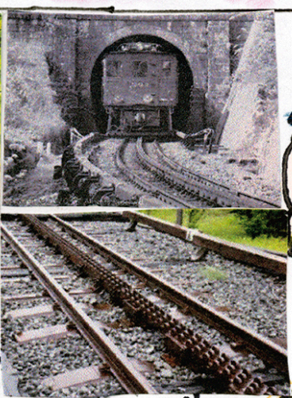
岩のすきまから冷気を出し、蚕の卵をちょぞうしていた。

〈③田島弥平旧宅〉

空気の入れかえをし、カイコのたまごをつくっていた。

〈まゆからできた生糸〉

↑碓氷第三橋梁（めがね橋）



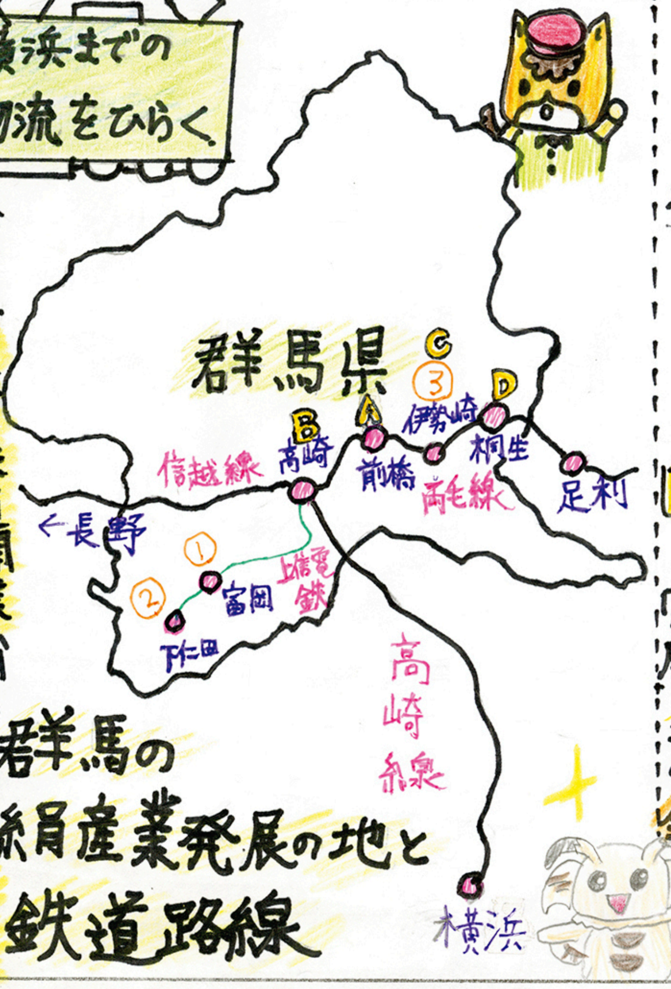
アプト式鉄道→

アプト式とは、急勾配を上る時に帯鋼板のこぎり状の歯を刻んだもの二〜三枚を歯の位置が交互にずれるように組み合わせると、ふつうの鉄道ではすべってしまうような急勾配でも上ることがかのうなせんろです。群馬県と長野県の境にある碓氷峠でつかわれていました。

『ロメモ』明治十四年に日本で最初の私設鉄道会社「日本鉄道会社」が設立されました。この会社の設立にあたって群馬県から支援者数が全国で多く支援金額も全国二位だったそうです。

今年は、日本の鉄道開業（明治五年）百五十周年の記念の年です。群馬県でも明治十七年に鉄道が開業しました。群馬県では、富岡製糸場などの世界遺産があり、まゆや生糸、蚕種（カイコの卵）などの絹産業がさかんです。生産された生糸などの価値は高く、昔は利根川の水運（舟）や馬車などを使ってたくさん横浜に運ばれて、そこから海外に輸出されていました。人の輸送もそうですが、群馬では生糸や絹織物を大量に早く輸送する目的もあって鉄道が開設されました。群馬県内で最初に開通した高崎線は、元々上野ー高崎間で計画されていましたが、前橋の生糸の商人たちが要望したことで、上野ー前橋間に延長されました。高崎線が開通してから、県内でも鉄道が開設されていきます。〈両毛線〉明治二十二年生糸の町「前橋」（図のA）、銘仙の町「伊勢崎」（図のC）そして西陣とならぶ絹の町「桐生」（図のD）を結んでいます。それぞれの町をつなぐため路線がジグザグになっています。〈上野鉄道（現：上信電鉄）〉明治三十年富岡製糸場（図の①）や蚕種（カイコの卵）を貯ぞうしていた荒船風穴（図の②）と高崎（図のB）を結んでいます。〈八高線〉昭和九年高崎（図のB）から八王子までを結んでいます。八王子からは横浜まで横浜鉄道（現：JR横浜線）が開通していました。このように群馬県内の鉄道は、絹産業とかかわりのある町や場所を結ぶ路線だと分かります。鉄道の開設は、ただ人が移動するためだけのものではなくて、生糸の輸送など産業の発展にかかせないものでした。

横浜までの物流をひらく



群馬の絹産業発展の地と鉄道路線

記者の目

今日、群馬県の鉄道の歴史を調べてみて、鉄道が絹産業の発展にかかせないものだったと知りました。富岡製糸場などが世界遺産になったのも鉄道の力があったからだと思います。今年で百五十周年ですが二百年、三百年と鉄道の歴史が続いていくといいなと思いました。

群馬の郷土カルタ（上毛カルタ）から見る群馬のきぬ産業♡

A 前橋市

前橋にも製糸場がありきぬがさかんだった。

B 高崎市

県内のきぬとやきぬのいせいひんがあつまってとないや、横浜にはこばれた。

か
関東と信越 つなぐ高崎市

C 伊勢崎市

伊勢崎銘仙と絹織物で発展、日本一の銘仙生産量

め
銘仙織出す 伊勢崎市

D 桐生市

西の西陣東の桐生とよばれ「織都」として発展した。

き
桐生は日本の機どころ

まゆときいとの生産量が全国一位。